

平成26年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	イブキジャコウソウの効率的な育苗・定植方法	
[要約] 農地の法面被覆に用いるイブキジャコウソウの効率的な育苗、定植方法を開発した。この方法では、慣行より大きい50穴セル苗を使用し、防草シートを設置して40cm間隔の疎植で定植することにより、慣行の方法に比べて定植初年目の労働時間及び導入経費を約半分程度に削減することができる。				
キーワード	イブキジャコウソウ	グラウンドカバープランツ	法面管理	○プロジェクト推進室 企画管理部 農業経営研究室

1 背景とねらい

岩手県農業研究センターでは、農地法面の管理作業の省力化及び景観形成の効果をねらいに、イブキジャコウソウによる法面被覆の技術について栽培マニュアルの作成等を行ってきた。しかし、栽培マニュアルに示した従来の栽培方法（以下、慣行）では、定植初年目～2年目の栽培管理に係る労働負担が大きいことから、慣行の方法を改良した効率的な育苗・定植方法を検討する。

なお、この試験研究は、農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」により実施したものである。

2 成果の内容

(1) 改良した育苗・定植方法の概要及び特徴は以下のとおりである（図1、2）。

	作業項目	改良	慣行（栽培マニュアル、平成20年）
育苗	セルトレイ準備	50穴セルトレイ	200穴セルトレイ
	挿し木	挿し穂3本/セル	挿し穂1本/セル
	育苗管理	その他の管理等は慣行に準ずる	栽培マニュアルに準ずる
定植	防草シート	防草シート（50cm幅、ホリブロン製）を設置	—
	栽植密度	40cm×40cm程度の千鳥状	20cm×20cm程度
	必要箱数	12.5箱/100㎡	12.5箱/100㎡
	その他	定植前に除草剤により定植面の除草を実施	
管理	定植時の灌水	定植時に定植面への灌水は不要	定植時に灌水を実施
	定植後の水管理	不要	定植後に年2～3回実施
	雑草管理	不要	定植後2年間は年2回程度実施
	防草シート撤去	定植初年目の秋（9月）に実施	—

(2) 労働時間と被覆率

ア 育苗に要する時間は、100㎡当たり4.4時間と慣行の約40%程度である。また、シート設置も含めた定植に要する時間は100㎡当たり13.5時間と慣行の約半分であり、その後の水管理、雑草管理も省略できる（表2）。

イ 定植初年目の被覆率は72.5%、翌年秋の被覆率は100%に達する（図3、表1）。

(3) 導入経費

定植初年目に必要となる導入経費は、労働費も含め100㎡当たり23,605円と慣行に比べ低減できる（表3）。

3 成果活用上の留意事項

(1) 雑草管理は、定植2年目以降は基本的に不要であるが、雑草の発生状況によって実施する。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等 県下全域

(2) 期待する活用効果 農地・水路・農道の法面の除草作業の省力化、景観形成

5 当該事項に係る試験研究課題

(H25-3100) 畦畔法面の植生転換による管理作業の省力化

[H25～29 独法等委託（食料生産地域再生のための先端技術展開事業）

（共同研究機関：（公社）岩手県農産物改良種苗センター）

6 研究担当者 吉田宏、松浦貞彦

7 参考資料・文献

(1) 平成20年度試験研究成果「イブキジャコウソウ栽培マニュアル」

(2) 平成20年度試験研究成果「基盤整備直後の法面管理としてのイブキジャコウソウの経営評価」

(3) 平成21年度試験研究成果「防草シートを使用したイブキジャコウソウによる省力的な法面管理方法の検討」

8 試験成績の概要（具体的なデータ）



図1 改良した育苗方法（改良の概要：50穴セルの大苗を育苗（慣行200穴セル）

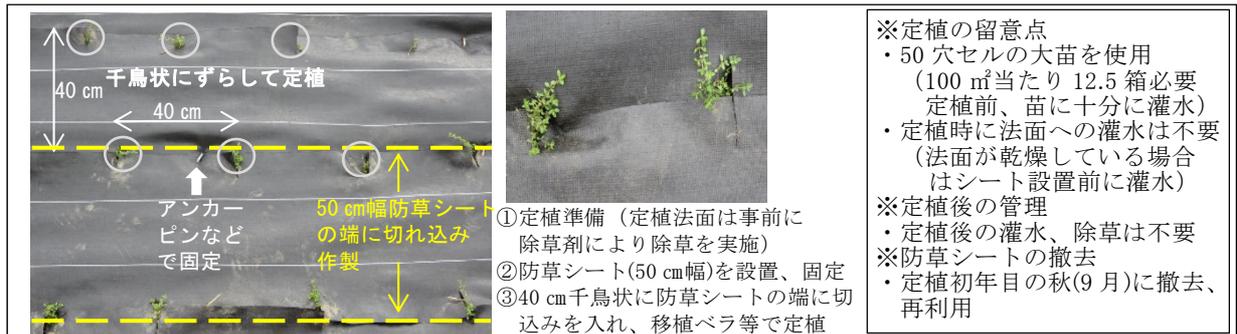


図2 改良した定植方法（改良の概要：栽植密度40 cm×40 cm千鳥状配置定植（慣行20 cm×20 cm）



図3 定植後の生育状況（陸前高田市）

表1 定植後の被覆率

時期	被覆率%	(参考慣行区)
定植初年 秋	72.5	70.0
定植翌年 秋	100	100

注1)改良の育苗・定植方法による被覆率

注2)試験場所は、陸前高田市、奥州市、八幡平市

注3)定植は6月に実施

※50穴セル大苗は、根鉢の培土量が多いため、定植後の乾燥による欠株が少ない（観察より）

表2 労働時間（100㎡当たり、定植年）単位：時間

作業内容	改良区	慣行区	マルチ区（参考）
育苗	4.4	13.1	13.1
定植（防草シート設置含）	13.5	27.7	14.6
水管理（定植後）	0.0	3.9	3.9
雑草管理	0.0	3.2	0.0
防草シート撤去	2.5	0.0	0.0
計	20.4	47.9	31.6

注1)慣行区、マルチ区は7参考資料・文献の平成20年度及び平成

21年度研究成果より（200穴セル苗、20 cm×20 cm間隔定植）

注2)マルチ区は生分解性の防草マルチを使用

注3)育苗は、育苗中の水管理を除いた作業時間

表3 導入経費（100㎡当たり、定植年）単位：円

費目	改良区	慣行区	マルチ区（参考）
肥料・農薬費（肥料、除草剤）	854	854	854
諸材料費（育苗、シート資材等）	8,018	2,939	52,079
小農具費	453	821	821
労働費	14,280	33,530	22,120
計	23,605	38,144	75,874

注1)慣行区、マルチ区は7参考資料・文献の平成20年度及び平成21年度研究成果を参考に算出

注2)小農具費は除草剤散布機、植穴機械（改良区は不要）の費用

注3)労働費単価は、平成26年度農業労賃・農作業料金標準額設定参考指針（岩手県農業会議 H26.3）より